

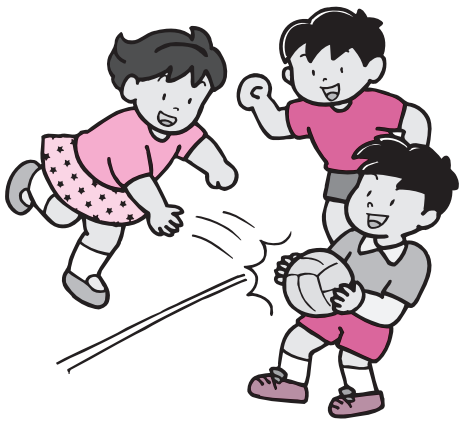
Q 子どもの人権から虐待・いじめの解決を

おのの 大野 ひろこ 議員



A 子どもの権利条約に沿った子ども子育て支援事業計画を策定

問 学び合い学習で、表現の自由、年齢に応じた意見への考慮等の権利について生かされているのか。
答 学び合い学習は、子ども同士がやわらかな人間関係でつながることを前提としている。全員が参加できる授業スタイルにより、子どもの育つ権利が守られている。
問 権利の主張と相手の権利の侵害。この矛盾への指導方法は。
答 子どもだけでなく教師も、ま



り良く育つ権利を保障するという条約の理念に沿ったものである。
問 子どもの権利条約を作る過程で、子どもたちの意見に耳を傾けることが、今必要なのではないか。
答 条例等で定めるのではなく、子どもたち自身が権利を実感できるように、子どもの権利が大切にされ、阻害されることがないように取り組んでいく。
◎その他の質問 認知症高齢者等にやさしい地域づくりに向けて

Q 部活動のあり方について

いずもびんたろう 出雲敏太郎 議員



A 必要に応じ、合同部活動により活動の場を確保していく

問 部活動の未加入や退部が内申に響くということがあるのか。
答 県大会や全国大会出場などの実績・事実のみを記載するものであり、未加入や途中退部が進学に有利・不利になることはない。
問 保護者への説明は。
答 部活動保護者会を開いて説明しているが、誤解も残っている。今後も丁寧な説明をしていく。
問 今夏、部活動中の熱中症の症状で5人の対応をしたという。教育委員会の指導は適切であったか。
答 各小・中学校に熱中症予防のマニュアルを配付し、適切な対応を指導している。活動計画や活動状況を校長が把握し、部活動が適

切に行われるよう指導を進めたい。
問 教員の本来の職務である授業等の充実のためには、部活での負担軽減が必要である。子どもたちの部活動の場を確保しつつ、活動総量の抑制を図るために、学校を越えた合同部活動の取組は。
答 今後の学校再編計画もあり、適正な学校規模を含めて議論していく。また、学校間での合同部活動により活動の場を確保していく。
◎その他の質問
 一 ごみ集積所をめぐる問題と今後について
 二 国民健康保険の被保険者証と高齢受給者証の一体化について



中学校の部活動の大会